日本選手コメント【7 月 15 日】

◆生馬知季選手（GROP SINCERITE WORLD-AC） T54 100m 予選＝決勝進出
「正直なところ、メンバー的には 1 着で抜けたかったが、最後、及ばず悔しさが残った。ただ、決勝に挑戦する権利を得られたので、そこはよかった。少し中盤以降、動きが固かったかなと感じるところもあるので、しっかりそこは動画もみながら、自分の感覚とすり合わせをして、決勝ではそこを修正できるようにがんばりたい。」

100m決勝後 「4位以内を目標にしていたので悔しい思いはあります。予選で感じていた動きの固さがでて自分の走りが出来なかったモヤモヤ感は決勝では、払拭できたのではないかと思う。世界のレベルは高いと感じたが、自分の走りとしては出し切れた感じはあります。今大会、400m、100mで決勝に進めたことは自信にして今後につなげていきたいと思う」

◆福永凌太選手（中京大クラブ） T13 400m決勝 金メダル
「レース自体は冷静に走ることができプラン通りだった。ゴールした時は自然と声がでて、やはりここを（1 位）目指していたんだなと確認できた瞬間だった。予選が良かったので、決勝では予選でラスト流した分をしっかり走り切ることだけを考えていた。来年のパリパラリンピックで世界記録を出そうと 4 年プランで考えていたので予定通り進んでいるかなと思っているのでこれからも頑張りたい」

◆兎澤朋美選手(富士通） T63 走り幅とび決勝
「4 位以内は最低条件だった。自己ベストを最低でも更新したかったので更新できなかったことは悔しさと力不足を感じた。良いコンディションでは臨めた。最初の出足の 4 歩の踏み込みである程度流れが変わるなと思っていたので、しっかり踏み込んで力を伝えることを意識をした。今日の跳躍の課題をもう一度整理して次につなげていきたい。」

◆前川 楓選手(新日本住設） T63 走り幅跳び決勝
「この日のために今年はすべてをかけてやってきたが、体の調子もすごくよくて、練習も結構よくてという状態でパリに入って、やれると思って臨んだが、まさかここまで跳べないとは思ってなかったので、正直、まだ頭が真っ白で、何も考えられない。助走はけっこうよくて、流れもよかったが、踏切がいつもに比べて、上に浮かなくて、そのまま落ちてしまう形だった。それは分かったが、それがどうして起こったのか、まだ、考えられていない感じ」

◆若生 裕太選手(電通デジタル） F12 やり投げ決勝
「練習投てきから自分の思い浮かべているイメージが再現できていたが、2 投目、3 投目からふくらはぎがつってしまってそこから小手先でしかコントロールできなかった。水分とかもしっ

かり摂っていたので、世界選手権の雰囲気に出力が今まで以上に出てしまったかもしれない。この大会で悔しさと楽しさを経験したので、来年の神戸やパリパラリンピックに向けて生かしていきたい。」

◆伊藤　竜也選手(新日本工業）T52　100m予選＝決勝進出

「楽しかったです。明日の決勝があるので、後半はそれほど力を出さずにいったが、余裕だったり、ゴールで電光掲示板のタイムを見て、これ、もう少しいったら、タイムが出るけどなと葛藤もあったけど、明日の決勝に残しておかなければいけないので、そこはセーブして、でも、すごく楽しかった。決勝も全力で楽しみたいと思います。」

◆山本萌恵選手(愛知陸上競技協会）T20　1500m決勝

「自己ベストが出なくて悔しかったです。抜かれたくなくて最後は頑張りました。来年のパリパラリンピックには絶対出てメダルを取りたいです。」